

	議論の内容	回答
1	◆質問の概要 ALARA会議について、対象の作業を増やすことはできないのか。(石田委員 他)	○現在、ALARA会議の対象作業を増やす方向で検討しています。
2	◆質問の概要 装備見直しにより新しく構内専用服が導入され、最終的には廃棄物となるが、その量について今後処理計画に反映してもらえるのか。(河井原子力専門員)	○構内作業服も含め、防護装備の廃棄物量についても実績を踏まえ、廃棄物保管管理計画の次回改定時に反映いたします。
3	◆質問の概要 放射線防護装備の使用量の分析については、取組の効果を見極めるためにも作業数自体の減少等の要素も含めてもう少し詳細に分析することはできないのか。(原子力規制庁)	○資料1-3のP3に示す通り、カバーオール使用数は、運用区分及び防護装備の適正化の運用開始前約8,000着/日に対して運用開始後約4,000着/日と減少しています。ご指摘の通り、この効果には、運用区分及び防護装備の適正化による効果だけではなく作業員全体の数が減った事による効果も含まれています。ただ、この詳細分析は、震災前のような厳格な区域管理は出来ない現時点においては難しいと考えております。 当社としては、今回の運用変更がゴールではなく、将来的には震災前のような厳格な汚染管理が出来るようにして行きたいと考えています。